

平成24年度 文部科学省大学間連携共同教育推進事業に採択される

取組名称「教員養成高度化システムモデルの構築・発信」

連携機関

兵庫教育大学	兵庫県立大学	神戸学院大学
神戸親和女子大学	武庫川女子大学	神戸女子大学
兵庫県教育委員会	神戸市教育委員会	日本教職大学院協会

1.事業の目的と概要

文部科学省の平成24年度 大学間連携共同教育推進事業に兵庫教育大学が代表校となり応募した取組「教員養成高度化システムモデルの構築・発信」が採択されました。153件の申請があり49件選定されたなかのひとつです。

この事業は国公私立の設置形態を超え、地域や分野に応じて大学間が相互に連携し、社会の要請に応える共同の教育・質保証システムの構築を行う取組の中から、達成目標が明確で高い成果が見込まれる取組が選定されました。

2.「教員養成高度化システムモデルの構築・発信」の概要



平成24年11月16日に実施された「兵庫県教員養成高度化システムモデル開発会議」の様子

教員養成機能の高度化を推進するとともに、地域の教育の質の向上を図るため、大学院に教職課程をもつ兵庫県内の上記の6大学と教育委員会等がそれぞれの実績、特色、資源と開放性教員養成(注)の利点を生かして、国公私立の大学連携による相互補完と協働により高度な実践的指導力を養成する「兵庫モデル」を構築することを目指します。

「兵庫モデル」は日本教職大学院協会を通して全国に発信するとともに学士課程と大学院の6年間を通した教職課程のカリキュラムや初任者研修等の内容をふまえた授業科目の共同開発、初任者研修等の研修内容の改善・充実に取り組みます。



会議で発言する波田重熙学長

(注)第二次世界大戦以前の師範学校を中心とした、ほぼ独占的な職業教育的教員養成のあり方が軍国主義教育へと繋がったことを反省し、戦後、大学での教養と専門の高度な学習をふまえて教員の資質の多様化をはかる養成を行うこととなり、多くの大学で教職課程を開設。所定の単位をおさめれば教員免許状が取得できるようになった。これを戦前の「閉鎖的」教員養成に対比させて、「開放性」教員養成という。

3.大学間連携共同教育推進事業における神戸女子大学の役割と期待するもの

グローバル化など社会の急速な進展の中で、中央教育審議会が教員の実践的指導力の育成強化がとくに重要と考へ、教員養成を修士レベル化し高度職業人として位置づけるという教員養成の改革を昨年8月にまとめました。神戸女子大学はそれ以前から、教員養成改革の動きに呼応して、本学の教員養成のあり方について議論を重ねていました。今回兵庫教育大学を代表校として、本学を含む県内の教員養成を行っている大学と県・市の教育委員会とが連携・協働する事業が「大学間連携共同教育推進事業」に採択されたことは、教員養成を大学運営の重要な柱に据えている本学にとって、飛躍のための大きなチャンスが巡ってきたと捉えるべきです。事業の中心となる「教育実習総合センター(仮称)」を通じて、本学の特色・資源を活かした教員養成の高度化と質保証システムの構築を積極的に進めることが重要であると考えます。

神戸女子大学 学長 波田 重熙